

英語読解のためのルール 1.6

1. 「前置詞＋名詞」の役割＝「形容詞と副詞」

①形容詞

②副詞

① The book on the desk is mine.

② There is a book on the desk.

同じ前置詞＋名詞「on the desk」が①では形容詞、②では場所の副詞として用いられている。

* この「前置詞＋名詞」と「動詞＋副詞」のセットを見極めるのが英語を読むことの第1歩。

I will look for you. 「look for」で「探す」という動詞を形成するので「動詞＋副詞」

I will do it for you. 「for you」で「君の代わりに」という副詞句を形成するので「前置詞＋名詞」

2. A of B = 「BがAする・BをAする・Bの持つA・BというA・Bの中のA・AのB」あとは「関連のofと性質のof」

①主格の of で「BがAする」

The arrival of the prime minister is delayed.

総理大臣が到着するのが遅れている。

②目的格の of で「BをAする」

The construction of a new school building is planned.

新校舎を作る計画がある。

③同格の of で「BというA」「A、すなわちB」

We know the fact of his being a student.

我々は彼が学生であるという事実を知っている。

* 「A of B」の形ならば、ほぼ同格の of だと考えて良い。また同格の that を用いて書き換えることもできる。

We know the fact that he is a student.

④部分の of で「Bの中のA」

Most of the students got to work at once.

その学生の中の大部分が、すぐに仕事に取りかかった。

⑤所有格の of で「Bの持つA」

The roof of my house is red.

僕の家屋根は赤い。

It is important to protect the rights of the workers.

労働者の持つ権利を守ることが重要なんだ。

* いつも「Bの持つA」とは訳出できない。「僕の家が持つ屋根」ではおかしいからだ。もう1つの判断基準は「B' A」で書き換えられるかどうか。

My house's roof is red.

It is important to protect the workers' rights.

⑥単位・数量の of で「AのB」

Would you have another cup of coffee?

コーヒーをもう一杯いかがですか？

⑦関連の of で「about」と同じ

He is speaking of skiing.

彼はスキーのことを話している。

* これは「A of B」の形をとらない。

⑧性質の of で「BはAだ」

It is very kind of you to help me.

僕を手伝ってくれるなんて、君は親切だ。

* Aのところに形容詞が来る。これは次のように書き換えられる。

You are very kind to help me.

3. that+文 = 「ことシリーズ（名詞）＋関係代（形容詞）＋なぜ、どうして＋その結果（副詞）＋強調＋同格＋熟語の that」

①不完全な文が来れば関係代名詞

This is the picture that Mike painted.

これはマイクが描いた絵画だ。

完全な文が来れば～

②ことシリーズで名詞

I believe that he is a great scholar.

僕は彼が偉大な学者であることを信じている。

That he once lived in Owariasahi is true.

彼が以前尾張旭に住んでいたことは本当だ。

* 「主語」にも「目的語（何を）」にもなることに注意。

③同格で「～と言う・・・」

We know the fact that he is a student.

我々は彼が学生であるという事実を知っている。

④なぜ？どうしての that で副詞

She is very glad that you are able to come.

あなたが来ることができ、彼女はとても喜んでる。

- ⑤ 「so ~ that+文」は結果・程度の that
 I am so tired that I can't walk any farther.
 僕はとても疲れてるので、(その結果) もうこれ以上歩けない。
 僕は、もうこれ以上歩けないくらい(その程度) 疲れている。
- * 2通りの訳出方法を記憶する必要がある。
- ⑥ 「It is ブリブリ強調 that+残り」なら強調構文の that
 It was on Friday that I bought the book.
 僕がその本を買ったのは金曜日だった。
- * I bought the book on Friday. の下線部を強調した文。
- ⑦ 「in that+文 / except that+文」は熟語の that
 Men differ from animals in that they can think and speak.
 人間は考え、話すことができるという点で動物とは違う。
- * 元々は「in the respect that ~」で同格の that だった。
 We know nothing except that he did not come home that night.
 我々は、その晩彼が帰宅しなかったということ以外は何も知らない。
- * 元々は「except the fact that ~」で同格の that だった。

4. to ~ = 「ことシリーズ (名詞)」「BするA (形容詞)」「何するために?・なぜどうして?・何するには?・その結果?・仮定法 (副詞)」

- ①後ろに名詞が来れば前置詞の to で「形容詞」か「副詞」
 He is wet to the skin.
 かれはずぶぬれだ。(到達点)
 Fog restricted visibility to 100 meters.
 霧のために視界が100メートルしかなかった。(限界)
- 後ろに動詞が来れば不定詞の to で~
- ②主語・目的語(何を)・補語 ならばことシリーズで名詞
 For her to go there alone is dangerous.
 彼女が一人でそこにゆくことは危険だ。
- ③名詞を飾っていたら形容詞
 I want something cold to drink.
 僕は冷たい飲み物が欲しい。
- ④「何するために?」で副詞(目的)
 I came here to see you.
 僕は君に会うためにここにやってきた。
- ⑤「なぜ・どうして?」で副詞(理由)
 I am happy to see you again.
 また君に会えて、僕は嬉しい。
- ⑥「何するには?」で副詞(程度)
 This book is too difficult for me to read.
 僕が読むにはこの本は難しすぎる。
- ⑦「その結果?」で副詞(結果)
 He went to Taiwan never to return.
 彼は台湾へ行って、(その結果) 二度と戻ってはこなかった。
 I awoke to find myself alone in the room.
 目が覚めると、(その結果) 部屋に一人きりであることに気が付いた。
 She lived to be eighty.
 彼女は80まで生きた。=彼女は生きながらえて(その結果) 80才になった。
 He went there only to be killed.
 彼はそこへ行ったが、(その結果) 結局殺されただけだった。=わざわざ殺されに行ったようなものだ。
- * 「too ~ to ~」「enough to ~」ならば「結果・程度」
 The problem was too difficult for us to solve.
 僕らには解決できないほど(その程度) この問題は難しかった。
 この問題はとても難しかったので、(その結果) 僕らには解決できなかった。
 He was rich enough to buy a foreign car.
 彼は外車を買うほど(その程度) お金があった。
 彼は金持ちだったので(その結果) 外車を買えた。
 * 書き換えが可能で頻出。
 The problem was so difficult that we couldn't solve it.
 He is so rich that he can buy a foreign car.
 He is so rich as to buy a foreign car.
- ⑧文頭に来れば「ことシリーズ」か「仮定法(ifを使わない仮定法)」
 To hear him speak English, you will take him for an American.
 彼が英語をしゃべるのを聞けば、君は彼をアメリカ人だと勘違いするだろう。

5. -ing = ことシリーズ (名詞)・現在分詞 (形容詞)・分詞構文 (副詞)

- ①主語、目的語になっていればことシリーズで名詞
Running for a long time is hard for me.
長い時間走ることは、僕にはしんどい。
- ②直前の名詞を飾っていたら現在分詞で形容詞
The girl running over there is my sister.
向こうを走っている女の子は僕の妹だ。
- ③文頭、「(,)ing」は分詞構文で副詞
Running into my room, I found a man dead in my bed.
部屋にはいると、男が僕のベッドで死んでいた。
「(,)ing」は「～しながら」か「～してそして・・・」を当てはめる。

6. as 「ので・とき・様に・つれて・しながら・比較・資格・関代の as」 文が来れば接続詞で、完全文が来れば～

- ①「理由の as」で「～なので」 (=because, since)
As I was late, I took a bus.
遅れたので、僕はバスを利用した。
- ②「時の as」で「～するとき」「～しながら」「～するに連れて」
Just as he was going out, there was a great earthquake.
彼がちょうど外出しようとしたときに、大きな地震があった。
She was trembling as she listened to the news.
その知らせを聞きながら、彼女は震えていた。
As we went up, the air grew colder.
登るに連れて空気が冷たくなった。
- * 時の as には3つの訳語が付く。
- ③「逆接の as」で「～なのだが」
Young as he is, he is rich.
彼は若いのだが、金持ちだ。

文が来れば接続詞で、不完全文が来れば「～の様なモノ」「～の様にスル」の意味で～

- ④「such A as B」「the same A as B」「as is often the case with～」なら「関係代名詞の as」
Choose such friends as will listen to you carefully.
注意して君の言うことを聞いてくれるような友人を選びなさい。
This is the same pen as I bought in London.
これは僕がロンドンで買ったのと同じペンだ。
As is often the case with him, he was late again.
彼には良くあることだが、また遅刻をした。
- ⑤それ以外なら「様態の as」
Do as I do.
僕がする様にしなさい。
Do as you are taught.
教わったとおりにやりなさい。
- * 「～の様なモノ・ヒト」は名詞を飾っているので関係詞、「～の様にスル」は動詞を飾っているので様態の副詞。

名詞が来れば前置詞の as で～

- ⑥「資格の as」で「～として」
It can also be used as a knife.
それはナイフとしても使えます。
- ⑤「様態の as」で「思う・考える→何を→どの様に」
We thought of him as a genius.
僕らは彼のことを天才だと思っている。
- * 「様態の as」には「as+文」(接続詞)と「as+名詞」(前置詞)とがある。同じ「様態の as」だから⑤の連番を振った。
- ⑦「as ~ as」なら「比較の as」で、前は副詞「～と同じように」、後ろは接続詞「～と比べると」
I can run as fast as he can.
僕は彼と同じくらい速く走れる。

7. 倒置3つ、省略2つ

- ①完全逆転型
Here comes the bus.
あっ、バスが来た。
- ②一部逆転型
Young as he is, he is rich.
彼は若いのだが、金持ちだ。
- ③疑問文型
No sooner had I left home than it began to rain.
僕が家を出るとすぐに雨が降り出した。

□①一度出たから2度目は省略

You can stay here if you want to [stay here].
I saw Lake Biwa on my way to [Kyoto] and from Kyoto.

②良く使うからなくても分かる省略

When I was young, I loved to play baseball.
What is the language [which is] spoken in Japan?
There was a boy [who] lost his way in the Park.
I have difficulty [in] solving the questions.

8. 「should」の4つの用法

□1. べき should = 義務・必要 (～すべきだ)

You should try your best in everything.
何事にもベストを尽くすべきだ。

□2. びっくり should = 感情の should ①

It is surprising that she should know nothing about it.
彼女がそのことについて何も知らないなんて驚きだ。

□3. がっかり should = 感情の should ②

It is sad that she should resign.
= It is a pity that she should resign.
彼女が辞めるなんてがっかりだ。

□4. 当たり前だの should = 主観的判断

It is natural that he should succeed in life.
It is necessary that you should go right away.
It is essential that you should overcome the difficulties.
彼が出世するのも当然だ。
君は当然すぐに出発しなくちゃいけない。
君が困難に打ち勝つことが当然重要だ。

* 感情の should、主観的判断は「It is ~ that・・・」の形をとることが多い。

9. 「the」の用法

□1. 「群れの the」

the Yabushitas 藪下家
the Dragons ドラゴンズ
the Alps アルプス山脈
the Philippines フィリピン諸島

□2. 「唯一絶対の the」

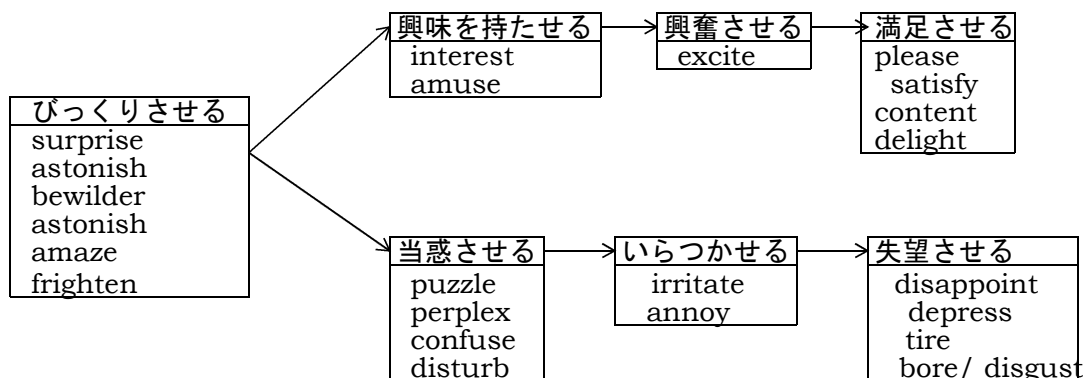
①世の中に1つしかないモノ
the sun, the moon, the earth, the universe, the sky
②「only」「last」「same」「very」「最上級」が名詞を飾っている
He is the only person who can do this trick.
彼はこの手品ができる唯一の人間だ。
③序数が付いている
This is the third time I have spoken to you.
僕が君に話しかけるのはこれが3度目だ。

□3. 「予告の the」

①関係詞節が来ることを予告する
This is the man that I saw yesterday.
こいつが昨日僕が会った男だ。
②「A of B」が来ることを予告する
London is the capital of the U.K.
ロンドン is 英国の首都だ。

10. させる系の他動詞

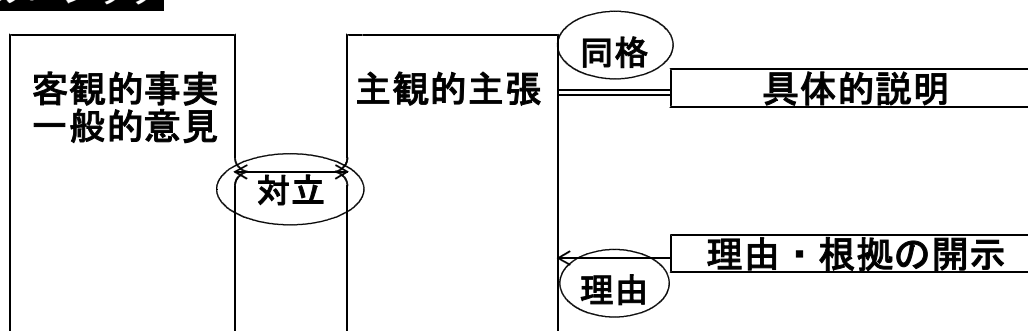
- 1. 受け身なのに進行形の訳語が付く。
 - 2. 叙述用法では「人 is -ed.」「モノ is -ing.」が原則。
 - 3. 限定用法では「-ed + 人」「-ing + モノ」が原則。
- * 「人はする」「モノは人によってされる」が発想の基本。



- * 「delight」はもの修飾の場合は「delighting」とはならず「delightful」。
- * 「satisfy」はもの修飾の場合は「satisfying」も使うが「satisfactory」の方が一般的
- * 「frighten」はもの修飾の場合は「frighting」も使うが「frightful」の方が一般的

- 1 1. 2つ目の「another」「also」があれば「1つ目」を探す。
- 1 2. 「it-they」「this-these」「that-those」「such」「the same」があれば内容説明問題あり。
- 1 3. 等位接続詞があれば直後に注目、直前に同じ形を探し何と何とが結ばれているのかを考える。
- 1 4. 指示代名詞は鉛筆を逆走させ手で探す。

英語のロジック



著者がその段落で何度も繰り返し使っている語句のことを「主題＝キーワード」と呼ぼう。「主題」を追えば著者がその段落で何について語っているのだから分かる。

対立の論理（主張の提示）

◆対立の表現

しかし・しかしながら・ところが・だが・けれども
but, however, yet
それにもかかわらず、それでもやはり
nevertheless, still
逆に、一方
oppositely, in contrast, on the contrary, on the other hand

* 順接の **and** は「そして、すると、また」。

同格の論理（具体的説明・具体例の提示）

◆並列の表現

つまり・すなわち・言い換えれば（換言）
namely, in other words, that is (to say), i.e., :, ;
例えば・～の様な（例示）
for example, for instance, such as, like
主に・特に（特化）
especially, particularly, chiefly, mainly, mostly

理由の論理（理由・根拠・原因の提示）

◆因果の表現

なぜなら・と言うのは（**主張**→なぜなら+**理由**）
because, because of, as, for, since
だから、従って、その結果、そこで（**理由**←そのわけで+**主張**）
so, therefore, thus, accordingly, consequently, as a result

追加の方法

◆追加の表現

その上、さらに、加えると
and that ~, beside that ~, beyond that ~
in addition, in fact, in[into] the bargain
as well, what is more
additionally, besides, furthermore

結論の提示

◆因果の表現

従って・それ故に・その意味で・その結果
so, therefore, thus, accordingly, consequently, as a result
for that reason

枚挙の方法

◆列挙の表現

第1に→第2に・最初に→次に→最後に・まず→また
first(ly), second(ly)～ last(ly), finally,
eventually
one, two, three ~ another, next, then
afterward(s), to begin with, to start with,
at the end

主張提示の方法① (強調構文・倒置構文)

◆強調構文の表現

AはBである。
It is B(プリプリ) that+A (残り)

(1)完全逆転型・(2)一部逆転型・(3)疑問文型

(1)Here comes the bus.

(2)Young as he is, he is rich.

(3)Little did I think that I would win.

主張提示の方法② (譲歩構文)

◆譲歩の表現

(なるほどAではあるが)しかしBである。

Indeed+文 A, but+文 B.

It is true that+文 A, but +文 B.

AばかりではなくBでもある。

not only A but [also] B

AではなくてBである。

not A but B

AにもかかわらずBである。

[A]though 文 A, [yet]文 B.

主張提示の方法③ (強調語)

◆強調語の表現

絶対に, 完全に, 全く～である(副詞)

absolutely, certainly, definitely, really, actually, clearly
completely, firmly, totally, entirely, utterly, indeed

～すべきである

should, ought to, must, have to

主張提示の方法④ (対比・対照法)

◆対比の表現

BよりもむしろA

A rather than B, rather A than B, prefer A to B,
B; if anything, A

BよりもAの方がもっと～

A is ~ er[more ~] than B.

A is ~ er[more ~] than any other B.

No other ~[No one, Nothing] is ~ er[more ~] than A

No other ~[No one, Nothing] is as ~ as A.

Aである一方でB

While A, B.

Aではなく、(その代わりに)B

not A, but B (instead).

要約作業のコツ

<誰でもできる要約問題の解法>

1. 原則的に、主張文は各段落の冒頭文にくるので、それをつなぎ合わせる。ただし、場合によっては最終文に段落のまとめがくる場合もある。普通は冒頭文をつなぎ合わせただけで要約の骨格が見えてくる！
2. 冒頭文以外に著者の主張を表す語句 (I think, I believe, ~)、注意語 (should, must, have to ~)、強調表現 (It is フリフリ+ that 残り、最上級、比較級)、などがあれば、冒頭文ではなくて、これらが含まれる文が主張文なので、これをつなぎ合わせる。
3. 対立表現 (but, however, on the contrary ~) の直後に主張がくる。
4. 例示 (for example, for instance) の直前に主張がくる。
5. 理由を表す語句 (because, because of, as, for, since) の直前、結論を表す語句 (so, therefore, thus, as a result) の直後に主張がくる。
6. 言い換えを表す語 (in other words, that is to say, namely) があれば主張が繰り返されていると思え。
7. 文章全体のテーマと結論を必ず反映させた要約にせよ！
8. 主張をつなぎ合わせて制限字数内でまとめる。超える場合は、「具体文」と「裏付文」を切り捨ててゆく。特に for example や A such as B などで表現されている「具体文」は要約には入る必要はない。ただし、利用できる表現があれば具体例中の語句でも利用する。

■採点法には、以前から問題が数多く指摘されている。例えば同一採点者でも採点開始直後と終了間際には同じような答案でも得点にかなりの差が出てしまうこと。だから細かな採点基準を設けてもあまり意味がなくなってしまう。

■東大の要約は、一定のレベルに達していたら○で、設問の配点全部を獲得し、達しなかった場合にはペケで零点となる。このくらいしないと公平性を維持できないわけだ。

■東大の採点基準は、要約に不可欠なキーワードを予め設定しておいて、その8割以上に言及していた答案は○。7割以下だとダメ。

■上の「冒頭文つなぎ合わせ法」を使えば8割以上のキーワードに大体言及できる！